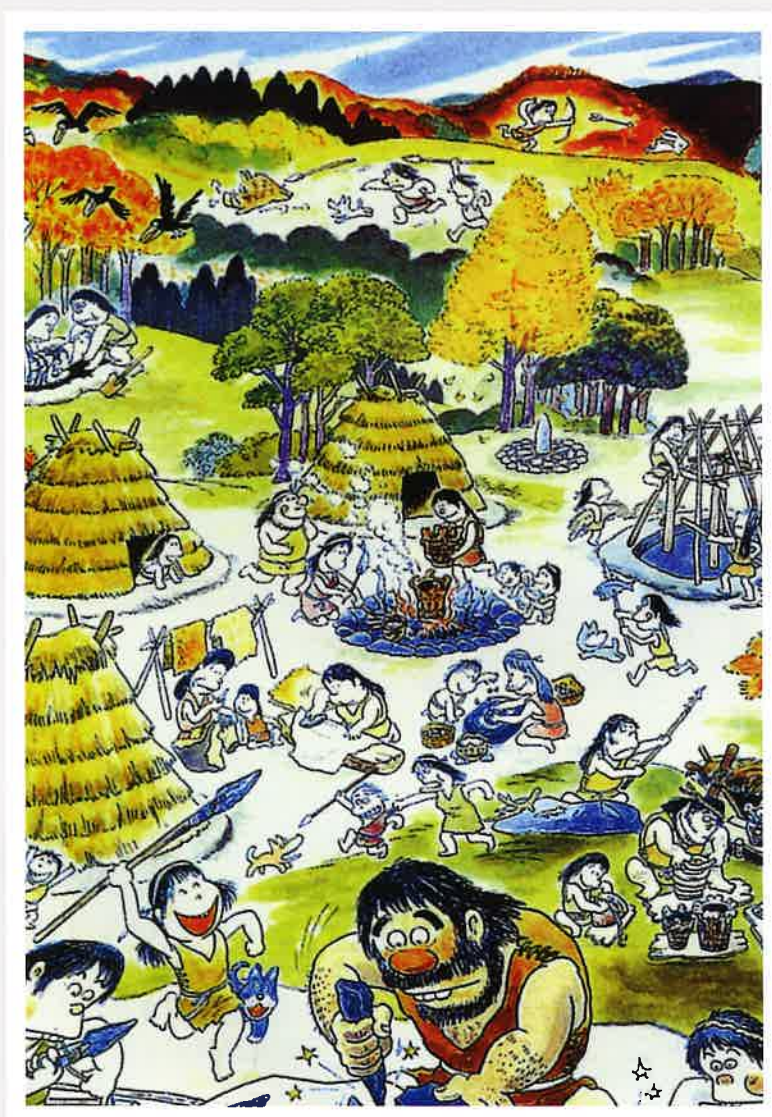


BEST JAPAN 研究会 会 報

高沢孝哉先生追悼号



The Primitive Society of Production
(原始生産社会)

JAPAN SOCIETY
OF
BURR, EDGE AND SURFACE
CONDITIONING TECHNIQUE

通卷

2022
No.41

高沢先生を 想う

2022年3月7日
㈱ブルー・スターR&D
柴野 佳英

思い出が 溢れすぎて、何処から、語ればよいか、わからなくなります。ただ、先生への感謝の気持ちを お伝えする前に 私の場合は、お詫びから始めなくてはならないのです。

2005年 私は、中国蘇州新区に独資で超音波バリ取り洗浄機メーカーを設立しました。超音波バリ取りメーカーとして、中国で 揺らぎのない基盤を作り 東証に上場を果たし、世界に進出できると信じていました。当時のBEST-JAPAN研究会会長の高沢先生から、BEST-JAPANを代表し、中国で、国際会議を開く準備をする様に指示され、事業の展開の合間に、太原大学、大連工科大学等を訪問、協議を重ね 2008年 蘇州大学で 表面処理とバリ取りに関する国際会議の開催準備を 押し進めました。先生の人脈は 広く、お名前を出すことで、交渉はスムーズに進み、蘇州市新区の日系企業への見学コースも無事決める事が出来ました。

しかし、中国の事を全く知らず、経営の実態を地元政府側にゆだねる形で進出していた私は、わいろを重ね私腹を膨らませる一部管理職の解雇を強行したため、逆に激しい労働争議に巻き込まれ、公安から 身辺の安全を保障できずとして、蘇州立ち入り禁止命令を受け取ります。

蘇州大学における表面処理とバリ取りの国際会議開催の前日です。私を信じて、国際会議の開催の準備をさせてくださった高沢先生には、大変申し訳ないと思います。結果、会社も失い、再起を図る中で、生前、先生にお会いすることも叶わず、時をすごしてしまいました。

私のバリ取りの人生は、高沢先生との出会いから始まります。まだ、ひげバリを取るのがようやくの超音波でしたが、先生は、いつもほめてくれましたし、励ましてくれました。そして 世界に広がるバリ取り研究会についての夢を語ってくれました。

今、私は知っています。

バリ除去の技術は、全ての加工技術全般に関わる基本的技術です。アメリカ、EU だけで
バリ取り専門メーカーは 200社を超え、先祖代々の技術を引き継ぐメーカーも少

なくありません。世界中に、バリと格闘する技術者がいるのです。バリ取りの市場は人間の手によるバリ取り分野の自動化をも想定すると4000億円を越し、間違いなく巨大市場です。精密加工技術の進歩と、その量産化は、さらに大きな、新しいバリ除去の市場を作り出そうとしています。バリ取り技術の自動化とその進歩無くして、製造業の日本回帰はあり得ません。

私は、世界中から送られてくる様々な製品のバリを日々、マイクروسコープで見ながら、ひとつの夢を持っています。バリ美術館の創設、バリ写真展の開催です。

高沢先生から あのガラガラ声で、笑われそうですね。

でも、皆さん。バリを見てください。なんと素晴らしい。

絶対に2度と作れない一瞬の技。バリと言う宇宙。極限の世界。

その不可思議、息をのむような美しさ。

いつか、

多くのバリと言う芸術的写真の頂に偉大なる先覚者・高沢先生の写真を飾りたい。